

認知症の人と家族への援助をすすめる

第37回 全国研究集会 in 山口

抄録と誌上報告

「ひらく」

～新時代へむけて～

日 時 / 2021年10月31日(日) 10:00～15:30

ライブ配信 / 10:00～15:30

会場・配信会場 / 山口市産業拠点施設(KDDI 維新ホール)



主催



公益社団法人

認知症の人と家族の会

担当：山口県支部

Alzheimer's Association Japan

本人の心の声を届けたい



にん ち しょう 認知症フォーラム.com

The screenshot displays the website's interface with a navigation bar at the top containing links like TOP, 基礎知識, 認知症EYES, 動画, 特集, 体験談, 認知症チェック, and キーワードから探す. The main content area is divided into several sections: a grid of video thumbnails with titles like '町永健雄のADリポート' and '介護家族の選択 まちづくりが二人の願いだった～愛知県常滑市～'; a '認知症の基礎知識' section with a list of topics; a '認知症キーワード' section with tags for various conditions; and a '認知症EYES' section with news and columns. A large QR code is overlaid on the right side, with a speech bubble indicating it can be scanned on a smartphone or tablet. Below the QR code, a smartphone is shown displaying the website's mobile version.

認知症のいまとこれからを **介護** **医療** **暮らし** の視点で動画と記事で解説
認知症専門医、福祉ジャーナリスト、編集部員が最新ニュースを解説します

見て、聞いて、読んで、認知症の人の心を知ってください

認知症フォーラムドットコム

検索

www.ninchisho-forum.com



公益社団法人

認知症の人と家族の会

入会のご案内



介護職

医療職

認知症に関心のある方は
どなたでも入会できます。

介護家族

ご本人

つながる」ことの大切さ

会員の声



会報を仕事に役立てています
(京都府 A男さん 施設職員)

毎月届く会報には認知症のご本人やご家族の声が載っており、仕事の参考にしています。入会して寄り添うことの大切さがわかりました。



つどいで笑顔になれました
(宮城県 丹野智文さん 認知症当事者)

つどいで話をしてみると、みんな同じ病気、飲んでいる薬も同じ、なんだかうれしくなり、笑顔になりました。



何でも話せる仲間に出会えました
(鹿児島県 N子さん 介護者)

同じ立場の人たちと会い、何を話しても良いという安心感から思いを吐き出しました。また会えるのが待ち遠しいです。

「家族の会」理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。

認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。



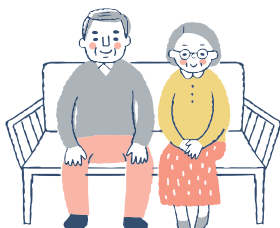
「資料請求」「入会申し込み」は「家族の会」【TEL(050)5358-6580 FAX(075)205-5104】まで。
ホームページからも可能です。

http://www.alzheimer.or.jp/?page_id=246

※ 開催日を変更しました。

2022
1.29. 土
13:00~16:30(開場12:00)

今年は参集および
オンライン参加です



会場 **メルパルク京都**

＜アクセス＞JR京都駅（中央口）より東へ徒歩2分
地下鉄京都駅（5番出口）より東へ徒歩1分

定員 会場：70名 オンライン：200名

＜事前申込必要＞

- ・会場は全席指定です。当日会場で指定席券をお渡しします。
- ・LIVE 配信のため開催時間以外は視聴することができません。

参加費 ●会場・オンライン 1,000 円(税込)

申込方法 ●会場参加、オンライン参加ともに



QRコード、ホームページからのみ
<https://www.alzheimer.or.jp>

認知症ケア専門士3単位取得講座

認知症と 生きると 向きあう あなたへ



講演

『介護から学んだ大切なこと ～認知症の母と過ごして～』

安藤和津氏 (エッセイスト・コメンテーター)

1948年、東京生まれ。学習院初等科から高等科、上智大学を経て、イギリスに2年間留学。その後CNNのメインキャスターを務める。現在は、女性の生き方、教育問題、自身の介護経験、「食」をテーマにした講演会だけでなく、トークショー、情報番組のコメンテーターなど多岐にわたり活躍中。近著の『“介護後” うつ「透明な箱」脱出までの13年間』は台湾でも出版された。



シンポジウム 介護家族が望む支援—電話相談から見える認知症介護—(仮題)

主催



公益社団法人

認知症の人と家族の会

公益社団法人

認知症の人と家族の会京都府支部

〒602-8222 京都市上京区晴明町 811-3 岡部ビル2階 TEL050-5358-6580

共催 京都府

後援



京都市

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催が変更となる場合があります。

目 次

開 催 要 綱	1
プ ロ グ ラ ム	2
ご あ い さ つ	公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫…… 3
基 調 講 演	新時代に希望を抱いて、認知症とともに今を生きる 講演者： 山口県立こころの医療センター(認知症疾患医療センター) 院長 兼行 浩史氏… 5
体験・実践発表	1 パートナーケア～心に宿ることば～ (山口県) 光田 武氏… 7 2 YouTubeの発信を通じた介護について (宮崎県) 月原美由紀氏… 9 3 MCI、本人の失敗談 (栃木県) 福本知恵子氏… 11 4 認知症移動支援ボランティア育成事業の未来 (大阪府) 神垣 忠幸氏… 13
シンポジウム	
<テーマ>	「新時代について、みんなで考えよう」
<シンポジスト>	
認知症本人	阿部 俊昭 さん(「家族の会」山口県支部 会員) …… 15
介護家族	堀永 敦臣 さん(「家族の会」山口県支部 会員) …… 16
専門職	児玉 悦子 さん(宇部リハビリテーション病院 認知症看護認定看護師) …… 17
行政	葛原 良樹 さん(山口県健康福祉部 長寿社会課 地域包括ケア推進班) …… 18
<コーディネーター>	川井 元晴 「家族の会」 山口県支部代表 山口大学医学部 神経・筋難病治療学講座 教授… 20
紙 上 報 告	1 遠距離介護で認知症のある母の一人暮らしを支えて ー「心のつばさ」を広げられるようになるまでのことー 介護ゆず… 22 2 認知症サポーターを養成するキャラバンメイトの活動に関する 要因についてのアンケート報告 山口県支部 室田るり江氏… 24
実行委員名簿	26
支 部 一 覧	27
個人協賛一覧	28

認知症の人と家族への援助をすすめる
第37回 全国研究集会 in 山口 開催要綱

- 1 名 称 認知症の人と家族への援助をすすめる第37回全国研究集会 in 山口
- 2 日 時 2021年10月31日（日） 10：00～15：30
- 3 場 所 山口市産業拠点施設（KDDI維新ホール、新山口駅北口直結）
Webを活用したハイブリッド開催（現地参集とオンラインの組み合わせ）
- 4 主 催 公益社団法人認知症の人と家族の会 （担当 山口県支部）
- 5 テーマ 「“ひらく”～新時代へ向けて～」
- 6 主 旨 2010年に超高齢化社会に突入し10年が経過した日本では、認知症施策推進大綱を受けた認知症基本法の検討や、アルツハイマー病に対する根本的治療薬の承認申請がなされ、さらには新型コロナウイルス感染症の対策も欠かせない状況である2021年はまさに新時代に入ろうとする時だと思っています。本人・家族にとって明るい時代を「ひらく（開く・拓く・啓く）」ための議論ができればと思っています。

7 内 容

- 基 調 講 演 演題「新時代に希望を抱いて、認知症とともに今を生きる」
講師 兼行 浩史 氏（山口県立こころの医療センター院長）
- 体験・実践発表 全国公募による発表（認知症本人、介護家族（県内・県外）、専門職他）
- シンポジウム テーマ「新時代について、みんなで考えよう」
出演者 阿部 俊昭さん（認知症本人）
堀永 敦臣さん（介護家族）
児玉 悦子さん（宇部リハビリテーション病院 認知症看護認定看護師）
葛原 良樹さん（山口県健康福祉部長寿社会課地域包括ケア推進班）

※上記の他、展示コーナー等（詩の展示と福祉機器展示）

- 8 参 加 費 参集：2,000円 学生：1,000円、オンライン（学割なし）：1,000円、
認知症ケア専門士単位取得（参集、オンラインともに）：2,000円
- 9 申込方法 FAXおよびWeb
- 10 後 援 厚生労働省、山口県、山口市、全国社会福祉協議会、日本医師会、日本看護協会、SOMPO福祉財団、全国老人保健施設協会、中央共同募金会、全国介護事業者協議会、宅老所・グループホーム全国ネットワーク、日本認知症グループホーム協会、全国老人福祉施設協議会、認知症ケア学会、山口県介護福祉士会、山口県認知症ケア専門士会、山口県介護支援専門員協会、山口県医師会、山口県看護協会、山口県薬剤師会、山口県作業療法士会、山口県宅老所・グループホーム協会、山口県立大学、YIC看護福祉専門学校、山口コ・メディカル学院、専門学校YICリハビリテーション大学校、**NHK** 山口放送局、**KRY** 山口放送、**tys** テレビ山口、**yab** 山口朝日放送、山口新聞社、中国新聞防長本社、**F** **Y** **E** **F** **I** **E** **山** **口**
公益財団法人 **山口きらめき財団**
YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

11 助 成

公益財団法人山口きらめき財団

山口きらめき財団
YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

<問い合わせ先>

公益社団法人 認知症の人と家族の会（担当：小野・上坂）

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F

TEL：050-5358-6580／FAX：075-205-5104 mail: office@alzheimer.or.jp

山口県支部（担当：川井）

〒755-0813 山口県山口市東1-1-2 TEL：083-925-3731／FAX：083-925-3740

mail: kazokunokai-yamaguchi@outlook.jp

認知症の人と家族への援助をすすめる
第37回 全国研究集会 in 山口 プログラム

10：00 開会

(20分) 歓迎あいさつ 公益社団法人 認知症の人と家族の会 山口県支部代表 川井 元晴
山口県支部顧問 神田 隆

主催者あいさつ 公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫

来賓あいさつ 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

認知症総合戦略企画官 菱谷 文彦 氏

山口県知事 村岡 嗣政 氏

山口市長 渡辺 純忠 氏

10：20～11：50 基調講演 新時代に希望を抱いて、認知症とともに今を生きる

山口県立こころの医療センター 院長 兼行 浩史 氏

11：50～11：55 舞台転換（休憩）

11：55～12：25 体験・実践発表

・パートナーケア～心に宿ることば～ (山口県) 光田 武 氏

・YouTubeの発信を通じた介護について (宮崎県) 月原美由紀 氏

12：25～13：30 お昼休憩

13：30～14：00 体験・実践発表

・MCI、本人の失敗談 (栃木県) 福本知恵子 氏

・認知症移動支援ボランティア育成事業の未来 (大阪府) 神垣 忠幸 氏

14：00～14：05 舞台転換（休憩）

14：05～15：25 シンポジウム「新時代について、みんなで考えよう」

認知症本人：阿部 俊昭さん（「家族の会」山口県支部 会員）

介護家族：堀永 敦臣さん（「家族の会」山口県支部 会員）

専門職：児玉 悦子さん（宇部リハビリテーション病院 認知症看護認定看護師）

行政：葛原 良樹さん（山口県健康福祉部 長寿社会課 地域包括ケア推進班）

コーディネーター：川井 元晴（「家族の会」山口県支部代表、山口大学医学部 神経・筋難病治療学講座 教授）

15：25～15：27 次回全国研究集会開催県紹介（山形県支部）

15：27～15：29 閉会あいさつ 公益社団法人 認知症の人と家族の会 副代表理事 杉山 孝博

15：29～15：30 笑い講

15：30 閉会

ごあいさつ



公益社団法人 認知症の人と家族の会

代表理事 鈴木 森夫

認知症の人と家族の会（以下「家族の会」）が、「認知症の人と家族への援助をすすめる全国研究集会」（以下「全国研究集会」）を、1985年に第1回を京都で開催して以来、今年で37回目となります。中国地区では、2013年の鳥取県で開催して以来8年ぶり5回目の全国研究集会を、ここ山口県山口市で開催いたします。

今年の全国研究集会は、新型コロナウイルス感染拡大が収まれば、参集とオンラインとの併用によるハイブリッドで開催することを前提に準備を進めてまいりましたが、感染拡大防止の観点から、やむなく参集は山口県内の方のみとし、昨年の三重県同様オンラインによる開催となりました。そのような中、県内からお越しいただいた皆さま、そして全国からオンラインでご参加いただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

開催にあたって、厚生労働省はじめ村岡嗣政山口県知事、渡辺純忠山口市長、県内市町村、関係機関、協賛いただいた企業や職能団体、事業所の皆さまにたいへんお世話になりました。ご協力いただき、ありがとうございます。

山口県支部は、2011年の全国総会で支部に承認され、46番目の支部として発足し今年が10年目となります。「つどい」「会報」「電話相談」の3本柱の活動を地道に進め、現在では、20名を超える世話人の皆さんが協力し、県内6ブロックで“つどい”を開催しています。2015年から山口市の補助を受け「認知症カフェふしの」を運営しています。さらに、山口県の委託事業として、認知症普及啓発のキャラバンメイト養成事業や県内の認知症カフェの実態調査を行ったうえで「認知症カフェサミット」を実施するなど、行政の積極的な支援を支えに、認知症の人と家族がともに安心して暮らせる地域をめざして、活発に活動しています。

全国研究集会は、誰もが認知症の人の対応に悩んでいた時、家族だけでなく、支援する人たちが各地での先駆的实践を交流し、よりよい支援や介護のあり方を共有、広く社会に普及するために始めたものです。今回も、基調講演、実践・体験発表、シンポジウムを通して、最新の認知症情報やさまざまな実践が紹介されます。これらの取り組みが全国各地に広がり、行政施策や地域の取り組みとして実現されることを期待します。

全国研究集会では、その時々社会情勢から、テーマを設けてきましたが、今回は、「“ひらく”～新時代にむけて～」としました。

基調講演は、「新時代に希望を抱いて、認知症とともに今を生きる」と題して、山口県立こころの医療センター院長の兼行浩史先生に、認知症専門医としての豊富な経験から、お話をさせていただきます。

シンポジウムでは、「新時代について、みんなで考えよう」というテーマで、川井元晴支部代表をコーディネーターに、認知症当事者の阿部俊昭さん、介護家族の堀永敦臣さん、認知症看護認定看護師の児玉悦子さん、山口県長寿社会課の葛原良樹さんに登壇していただき、それぞれの立場から、新薬や新しい施策が到来するであろう近未来に向けて、本人や家族が地域で自分らしく生きるために、支援者や行政関係者とともに、どう取り組んでいくかを一緒に考えていきます。

ところで、山口県は天才童謡詩人の金子みすゞのふるさとです。今回、その代表作である「私と小鳥と鈴と」の一節をモチーフに「認知症みんなちがってみんないい」の創作詩を全国の支部に募集したところ、28支部から115編の応募がありました。当日は、山口県立大学の学生さんの協力で、会場に展示するとともに、オンラインで全国の皆さまにご覧いただけるよう準備しております。

最後になりましたが、「家族の会」山口県支部の皆さんをはじめ、開催にご尽力いただきました現地実行委員会の皆さまに心から感謝申し上げます、私のごあいさつといたします。ありがとうございました。



◆ 基調講演 ◆



新時代に希望を抱いて、 認知症とともに今を生きる

山口県立こころの医療センター（認知症疾患医療センター）
院長 兼行 浩史

朝目覚めるとまた今日1日が始まる。そんな日々を積み重ねて、演者も来年には還暦を迎える。超高齢社会ではまだ若輩者と自覚して、当分は現役世代を担う覚悟でいる。34年間精神科医として働き、多くの認知症患者さんやご家族との出会いや別れがあり、感慨深く振り返るとともに、自分が成したこと、成し得なかったことを思い巡らせる。30年間で医療技術は着実に進歩しており、2000年に始まった介護保険体制も整備されてきた。認知症の人が安心して暮らせる社会をめざすため、新オレンジプランが示すように様々な分野の課題がある中、認知症医療のあり方についても、検討すべき課題は多い。貴重な機会を頂いた本講演では、30年余の経験を振り返りながら、新時代にむけて演者の立場から希望を届けたい。

認知症は、年齢とともに有病率（病気である率）が高まり、80～84歳で22%、85～89歳で44%、90歳以上で64%と報告された（2018年調査）。超高齢社会における認知症の人の急な増加は、人の老化と深く結びついた現象であり、超高齢者（85歳以上）の認知症を病気と捉えることの「弊害」も指摘されている。超高齢期にて、認知症は生理的な加齢変化の延長線上にあり、疾患モデルでなく、社会モデルとして捉えるべきとの意見もある。もっとも、認知症を抱えた超高齢者においても、心身の健康を維持するために、かかりつけ医を中心とした医療には重要な役割があり、「弊害」とは認知症への過剰な検査や薬物治療に集約される。

月日を重ねて老いて行くこと、いずれ人生の最後の日を迎えることは、言うまでもなく、誰もが避けられない宿命である。時に急な病気に襲われて乗り越えて行くこと、慢性的な病気や後遺症と共生することも求められる。老いて行く道程は、個人的な体験であり、道なき草むらに1人で分け入って彷徨い歩くようでもある。しかし、幸い私たちは家族や地域社会の中で生活しており、自分の過去・現在・未来の役割や存在意義を感じることで、老いても生きる意味を保つことができる。例えば1人で暮らしても、祖父母や親と触れ合った若き日々や、家族や仲間と過ごした日々を追想し、彼・彼女らがあの時に抱いた想いを共有していると感じた瞬間、孤独感が癒やされるであろう。認知症を抱えると、過去の大切な記憶と現存在のつながりを失うため、ご本人の孤独感も高まると推察する。

「認知症フレンドリー社会」を築くために、ご本人や家族の視点を共有しつつ、地域社会で認知症への正しい理解を普及啓発する取り組みが今後とも重要となる。当会の活動も大きく貢献して、日本認知症本人ワーキンググループが「認知症とともに生きる希望宣言」を掲げ、認知症施策推進大綱で「共生」と「予防」を両輪とした施策が展開されている。新作映画『ファーザー』は、認知症の人が時間や家族との関係を失って苦悩する世界を描いた秀作で、この映画の誕生は新時代に希望を抱ける兆しとを感じる。

認知症の人の苦悩は、病気の時期や症状、生活状況によって多様と思われるが、初期には、日常生活上の失敗が重なり、自分はどうなってしまったのかと混沌とした不安に苛まれ、1人で対処が困難で周囲に頼らざるを得ないことに自尊心が傷つけられると懸念される。認知症を疑った場合、身近な医療機関で早期に適切な検査・診断を受け、必要に応じて専門医で精査の上、不安を軽減し進行予防や生活支援へとつなげる医療の提供が望まれる。なお、若年性認知症では、働き盛り・主婦世代を襲う不運から、ご本人・家族が直面する苦悩は深刻であり、経済的保障など支援施策の強化が求められる。

演者の取り組みとして、2006年から県医師会で「かかりつけ医の認知症対応力向上研修」を年2回開催し、2016年から歯科医、薬剤師、看護職を対象とした研修も関わってきた。認知症サポート医のフォローアップ研修も含め、県内の認知症医療の連携を強化しつつ、当事者・家族に寄り添った医療姿勢の大切さを強調してきた。

県内の認知症医療の提供体制を構築する上で、脳神経内科、精神科、脳神経外科といった各専門領域の良好な連携関係を積極的に進めてきた。認知症疾患医療センターは、2009年から当院で運営し、現在は県内8カ所となり、連携して毎年合同研修会を開催している。2013年から認知症初期集中支援チームのモデル事業に宇部市と参画し、市医師会と認知症研修会や事例検討会を開催してきた。2019年に県と県医師会が連携して、山口県支部代表の川井元晴准教授（現山口大学医学部神経・筋難病治療学講座教授）とともに、山口県「オレンジドクター制度」を立ち上げ、認知症の診療体制の水準向上を目指している。また、年2回の本人・家族の交流会を企画し、スタッフとともに貴重な機会を得ている。

講演では、これらの実践を踏まえ、希望とともに新時代にむけて、今後の認知症医療のあり方を提言したい。



◆ 体験発表1 ◆



パートナーケア ～心に宿ることば～

認知症の人と家族の会

山口県支部 光田 武

ひとは老いて病む。パートナーが認知症になる。すべての生活が一変する。いつもあたりまえが生活から消え失せる。自分の妻だろうかと思うこともあった。認知症は治らない、治せない病だが、できることがある。

認知症を病んだ妻（75歳）に寄り添い病と向きあった8年間を顧みる。心に宿る「ことば」にエピソードを交えながら紹介したい。「爺が婆を在宅介護する」妻（没83歳）と歩んだ道のりが、老いる今を生きる私（89歳）を支える。私の自戒、四つの『あ』でむすびたい。

・初期

胃癌手術の半年後に老人性のうつ病を疑って妻を入院させた。パーキンソン症状を伴うレビー小体型の疑い（長谷川式18点）がもたれ7週後に退院し専門病院へ在宅で通院を始めた。最終診断は前頭側頭型？（セカンドオピニオン）

退院当初（75歳）は要介護5、ねたきり、歩行困難・車椅子、見当識障害（午前と午後が曖昧）、記憶障害（食べたかどうか内容も不明）、思考判断力の低下、言語機能・語彙の衰退、ときにはせん妄（人、虫がいる）が現れるなどの状況だった。妻とどのように暮らせばよいか茫然となる時期であった。

・ドクターとデイサービスの出会い 徐々に日常を取り戻す

入院中の主治医の紹介で専門病院の通院（4週間隔）を始めた。同時にケアマネの勧めでデイサービス（週6日間）に通う。人を診る医師、相性のよいデイサービスに出会う。

- ① 妻『おとうさん、一人ひとりを分け隔てなく大切にするよ』『私がいなくなったら楽庵へ行きなさい』（7年間通い続けたデイサービス）

通い始めて2年後のある夜のことで、私へポツリと語りかける妻の言葉にハッとする。思考・判断力がかなり低下し言葉がすらすらと言えない妻が、毎日通うデイサービスの想いを私に伝える。

デイサービスは純農村の里山に近い空き農家を活用した小規模（定員10名）、畑あり野菜も作る。「そのひとらしさ・地域での暮らしを続けることの援助をするのが、私たち介護職の責務です」と経営者・管理者は語る。

入浴の着替えバッグにはエプロンをもたせる。農村のごく普通のおじーちゃん、おばーちゃんに認知症の方が混じっている。口達者、何でもできそうなやり手のおばーちゃんも、麻雀好きのおじーちゃんも、妻が手ごわい仲間もいるようだ。実は色々な方と生活ができる場が大切。人と触れあう関わりの中から日常のあたり前を体現できる。

一口で言えば「心と体を閉じ込めない開放的なデイサービス」。終末期になっても通い続け受け入れていただいた。相性のよい行き場が生活を取り戻す近道。

② 主治医『老人に一錠は多すぎます』（6年間通院）

ご高齢の医師の哲学を識る言葉。ときには一錠を1/4に分割して処方。薬を見直す。年齢・体重に合った適量と副作用を注視した。通院2年後にはセロクエル25mg半錠のみで眠剤も不要になった。

③ 安定期の妻『私はあなたのソバがいい』

〈私の手料理、蕎麦と側^{そば}を掛けるジョーク。夫への最高のプレゼント〉

通院とデイサービスの相乗効果で、次第に生活が規則正しくなり、寝る・食べる・排泄の基本が徐々に一定リズムを回復できるようになった。実はこれが日常生活を取り戻す原点だと思った。

「初期の認知症患者には生活機能の学習能力が残されている。そこに注目した介護が求められる」とする朝田報告（2013）を支持できる。

・終末期・在宅診療

④ 訪問看護師『大丈夫、私がいるので買い物へ行ってらっしゃい』

ある日のこと、妻の容体を察して私にかけて下さった言葉だった。

通院6年目を迎えた頃から、体全体の機能とくに食べる意欲、飲み込む力、排泄の力が急に衰え体重が30kg近くまで減った。終末期が近づいたと察し、24時間体制の訪問診療・看護に切り替えた。初めて医師を私の意志で選ぶことができた。安心できる制度。在宅診療は生活の場でいつもの部屋で治療が受けられた。誰にも気兼ねがいりません。24時間いつでも医師と連絡が可能。

⑤ 訪問医『あなたが家に入るのを確かめていました』『とっさのときに、鍵を忘れる、見つからない家族がいます』

訪問医の真髄に触れる言葉。終末期に妻が大腿頸部を骨折し、訪問医が入院先を手配して医師も同行。妻を残して深夜に帰宅する夫を自宅まで送り届けた医師の心遣いだった。

・講習会

⑥ 杉山孝博医師『食べたいときに、好きなものを、いつでも食べる』

Dr.杉山の講習会を4回受ける。終末期を支える言葉。

・長谷川和夫先生

⑦ 『病んでも心は生きている』

妻が病んで初めて受けた講習会「認知症の理解を深めて」（山口県支部発会の下関講演2011年12月）で肝銘。先生の著作、自己の体験、集いを通じて今も認知症とは老いるとはを考える。

・私の自戒四つの『あ』

あきらめない・あせらない・あなどらない・あてにしない

・むすび

妻を自宅で看取りたいと願っていましたが転倒、手術後ねたきり、誤嚥性肺炎で逝去。それから4年が過ぎた。8年間書きとどめたケアノート、デイサービスの連絡帳を読み返して「心に宿ることば」から体験を語る。

認知症の臨床・教育研究に生涯をかけて向きあってこられたお二人の老医師の著作に私の体験を重ねる。同感できるお言葉だ。有難うございました。

『対応によって穏やかになる。認知症のケアの基本である』（長谷川和夫医師）

『愛情と工夫次第でいわゆる周辺症状は軽くなる。ない人もいる』（大井玄医師）

◆ 体験発表2 ◆



YouTubeの発信を通じた 介護について

月原 美由紀

【はじめに】

現在、アルツハイマー型認知症、要介護度3の実母と二人暮らしをしています。

介護が始まったのは、今から7年前のこと。診断が出てから3年半、本当にいろいろなことを経験しました。

強い介護拒否・夕暮れ症候群からの徘徊など。しかし、それらを乗り越えた時、「介護って楽しい！」というところに辿りつきました。これが、YouTube発信を始めることに繋がります。

【YouTube発信のきっかけ】

YouTubeは2019年12月30日にスタートしました。正直、最初は嫌だったんです。なので、最初の頃は、母の顔を出さずに配信していました。そもそも、なぜYouTube発信することになったのか。

その頃の私は、「介護って、大変だけど、楽しいんだよね～」という話を周りによくしていました。たまに会う友人たちには、「とても介護しているとは思えない」と言われるほど明るい介護者だったようです。そんな様子を見ていた異業種の方々から、「ぜひ、それをYouTubeで発信しようよ！」という話から、最初は半ば強制的に始まりました。

【認知症と言えない世の中】

「介護している」と言うと、9割の方々が「大変ね～」って、どんよりした顔になります。そして、「親が認知症」ということをまだまだ言えない方がたくさんいます。私も診断当初はそうでした。勤めていた会社には、「『不治の病』です」と言ったのを今でも鮮明に覚えています。

なぜ、「認知症」と言えなかったのでしょうか。

この「言えないこと」が介護者を苦しめることになります。だからこそ、そんな世の中の雰囲気を変えたいという思いが日々強くなってきています。

【YouTube発信で感じていること】

こんな声がたくさん届きます。

『周りに同じ介護者さんがいないから、ココにきてホッとしました』（視聴者様の声）

介護者が周りにいないなんてことは、本当は絶対ないですよ。よほど小さな町で、隣の家まで

1 km以上距離がある、とかなりあり得ますが・・

平成24年時点で、認知症患者数が462万人もいますので。

私は視聴者様の悩みに対して、私の経験や日常のエピソードを交えながら伝えるようにしています。それが、今苦しんでいる介護者さんがラクになる一助となるからです。

『チャンネル登録して良かったです。4 か月前の自分と今では少しずつですが楽になってきています』（男性介護者様）

経験したことのない介護だからこそ戸惑いがあり、誰にでもなりうる病気だと何となくわかっていても実際に家族になると、なかなか受け止めきれず、誰にも相談できず、そして、日々のストレスを発散できずに一人で悶々と悩む日々を過ごしている介護者さんがあまりにも多いです。これがのちに、介護殺人や介護虐待へと繋がるんだろうと思います。

しかし、上記の男性介護者さんのように、明らかに変化していく自分自身を感じてくれている介護者さんが増えてきています。それは、やはり、同じ境遇の介護仲間がいるという安心感を得られているからではないでしょうか。介護は本当に孤独になりやすいです。

だからこそ、「認知症の人と家族の会」が40年も続いているんだと思います。

そして、もう一つ大きな変化がありました。それは、家族が変わったということ。

このYouTubeを始めるにあたり、家族や親類には一言も言わず、いわば内緒でスタートしました。内心、バレたら嫌だな～という気持ちすらありました。しかし、蓋をあけてみれば、兄が友人知人に、「今すぐチャンネル登録して！」と宣伝してくれていたんです。これが一番の喜びと驚きです。介護には直接タッチはしていませんが、母への声掛けなどしてくれるようになったんです。家族が変わると介護者としての気持ちに余裕が出てきます。

【さいごに】

認知症介護は平坦な道ではありません。しかし、一人でも多くの介護者さんが一人でも多くの同じ境遇の介護者さんと繋がることで安心感を得て、心に余裕のある介護ができるようになったら・・・そう想像すると、自然に笑みがこぼれます。

介護される側も、ギスギスした中で介護されるよりも、いつも笑顔で介護されている方が断然幸せを感じますし、病気の進行だって緩やかになるはずです。介護する側もされる側も、毎日笑顔で過ごしてほしいと心から願っています。

YouTube発信は顔出しするということでリスクを伴います。それは100も承知で始めました。しかし、それよりも何よりも、世の中が、「認知症」を我が事として受け止め、自分の町でいつも通りに安心して暮らせる、そして介護者も笑顔で毎日を過ごせる、そういう介護の世界にしていきたいと思っています。

必ずそういう日はくると私は確信し、これからもYouTube発信を続けていきます。

ぜひ、みなさんの応援もよろしくお願いいたします。

明るい介護の世界を一緒に作っていきましょう！

YouTubeチャンネル「世にも可笑しな認知症介護術」で検索

◆ 体験発表3 ◆



MCI、本人の失敗談

栃木県 福本 知恵子

私は、今年の2月17日で満80才になりました。一人暮らしです。

主人は2015年11月78才で亡くなりました。主人もMCIでした。13年位アリセプトを飲んでいましたが、いろいろ失敗しながらもプライドの高い人なのでデイケアなどには行きませんでした。

目が不自由なので盲学校の教諭をしておりました。ボランティアが好きで、台湾の盲人重建院という所へ、夏休みなどに盲人のため指導に行き、総統にいろいろとお礼のプレゼントなどいただきました。

しかし、突然お風呂で亡くなってしまいました。私は、びっくりして、その後は忙しく泣くことも出来ませんでした。

その頃から、主人と同じように失敗するようになり、医師にみていただきMCIと言われ、薬を飲むようになりましたが、副作用でつわりみたいになり、次々と薬を変えても合わず、今は飲んでおりません（内科や整形外科の薬は、いろいろ飲んでいますが）。

しかし、日々失敗が多くあきれはてております。幸い主人がMCIでしたので、以前から認知症の人と家族の会に入っており、「ぼ～れば～れ」も読んでおりましたし、栃木県支部の金澤代表などと「石蔵さろん」という所で、月一回お交わりをさせていただき、私は、お礼のつもりで、毎回赤飯を持参して楽しく過ごし、若年性の方々と皿洗いをしたり、おしゃべりをして楽しく過ごしています。

免許証は返納しましたので、いつも奥様を介護されている山田さんが同じ地区に住んでいるので送迎してくださり助かっております。

私には、子供が二人おりまして（孫は五人）、長男はインドネシアで働いてやっと日本に戻れたと思いきや、2週間止めおかれて、その後は大阪に単身赴任を命ぜられ、家は浦和にあるのに、家族と離れて生活しております。

娘は、東京の方に住んでおり、二人とも持ち家があるので、私一人田舎に住んでおります。

私が嫁いだ時は、義母がひとりで農業をしておりました（義父はすでに他界）が、主人は、盲人なので盲学校で働き、私は保育園の保母をしておりましたので、農業はできません。その点、義母は苦労しました。

義母は農業を他の人に任せてからは、ゲートボールなどして90才まで楽しみました。85才位からいろいろと失敗が多くなり、認知症になって人々に迷惑をかけることが多くなりました。

若い方が一人去り、二人去りと他界しましたので、ゲートボールをやめました。

とたんに、認知症がひどくなり、あちこち散歩に行つては迷子になることも多くなったので、デイサービスに通いました。

途中でころんで大腿骨骨折をしてしまい入院。退院後すぐ、もう片方も骨折してしまったので、特別養護老人ホームに入所することとなりました。食欲のある義母だったので、私は毎日自分のお弁当を持って、ホームに通い一緒に昼ごはんを食べて帰ってきました。

義母は、「ありがとう、ありがとう」と言ってくれましたので、本当によかったですが、2010年1月、100才に12日足りませんが急に亡くなりました。それでも、国からは100才として祝ってくださいました。

私は今は、介護者の会や病院でのコグニサイズ、包括の方の介護予防教室に参加し、皆様にお世話になって明るく過ごすことができております。

ただ、昨年からコロナ禍により、すべての「会」が中止となり、唯一、「石蔵さろん」は続けてくださり感謝です。

では、最近の失敗談もお知らせしましょう。注意力がなく、思い込みがひどく、方向おんちにもなります。

私は、医師にMCIと言われた時から、すぐに皆さんに助けをいただきたいので、組内の方をはじめ、スーパー、コンビニ、郵便局、内科、整形外科、歯科など通院も多いので、隠さないでMCIであることをはっきり伝えております。

①1円玉がたくさんあるので、振込料203円を1円玉で支払うことにして、用意して持って行きました。そして、皿に並べて「203円細かくて、すみません」と平気で言っていました。局員さんが、「福本さん、ごめんね。これ23円しかないんだわ。」と言われて、やっと気がつきました。私は10円玉を20枚持参すべきだったんです。あきれてみんなで大笑いしました。

②トイレトーパーのつけ替え忘れ。

③洗濯物の話。夕方になって洗濯物を片付けようとしたらない！！テレビに夢中になって干すのを忘れてしまったのです。

④エアコンの消し忘れ。朝、台所に来るとエアコンが動いていました。失敗、失敗。

⑤通販が来るのを忘れ再配達をお願いすることになって迷惑をかけました。

⑥水道の水を止め忘れ、朝、庭が水でいっぱい。

⑦薬の飲み忘れ。

⑧確定申告では、年金だけなので行かなくてよいのに、一日無駄足に。タクシーで行って、タクシーで帰って、あ～あ疲れた。でも病気にならず帰って来ることができよかった。雪国の方々は、毎日雪かきで大変です。

⑨まだまだ、たくさんあります。自転車で出かけ、帰りはバスで帰ってしまい自転車を取りに行くはめになったり……。人の名前などすぐに忘れます。そんな私を皆さん受け入れてくださり、感謝でいっぱいです。これからもよろしく願いいたします。字も書けず、文も下手ですが……。 (原文のまま)

◆ 体験発表4 ◆



認知症移動支援ボランティア 育成事業の未来

「家族の会」大阪府支部代表

神垣 忠幸

■ はじまり

令和2年4月、大阪府支部のつどいに来られた会員父娘から悲痛な訴えを聞いた。現役の看護師が若年性認知症になった。妻であり母であるその人を家族は懸命に支えているが、ひとりで通勤することが困難になりはじめ、朝晩の通勤の同行が必要になってきた。夫が仕事を控えて妻の同行を始めたが、毎日の同行は厳しい。何か支援はないだろうか。

大阪府支部ではさっそく、本人の朝の通勤経路を実際に同行してみたが、世話人がそれを直接手伝える力量はない。行き先の最寄駅から勤務先へ歩く経路も商店街などは無く、頼れる人も見当たらない、公的な制度もない。

■ 決断

そこで私たちは、ボランティアを募り、養成することを決断した。養成のためのカリキュラム作りの資金調達のためにクラウドファンディングを実施し、講師を選定し、翌年2月に講座を実行した。この間は国内で感染症が猛威を振るい、外出も集会もはばかれる時世のさなか。趣旨に賛同して寄付をいただいた多くの方々、受講料一万円を振り込んでくださった多くの参加希望者のご期待に応えて、二日間の講座を終えることができた。ただ、看護、介護等に従事する方で、当日の参加を控えざるを得ない方が10名もあり、当日参加は16名にとどまった。それでも夜勤明けをおして参加して下さった看護師、東京からはるばるやってきた会計士など、参加者の熱気は伝わってきた。

■ 助成

そして令和3年度この事業に大阪府から助成金を得て、養成から実行まで行う予算の目途が付いた。2月の受講者からは「ボランティアに行く際の交通費が自己負担になると、継続が不安だ」の声が相次いだことを踏まえ、助成金申請時にその点を強調し、交通費の予算も確保した。

■ 制約と課題

残念なことに今もまだ緊急事態の影響で外出自粛を強いられている。しかしながら、外出し、人と出会う機会を制限されてしまっただけでは、健康な人でも心身を不調にしてしまう。認知症の本人とその家族はなおのこと、更に辛い状況を耐えている。

私たちは第二回目の講座実施に向けて、まず2月の講座の受講を断念された方々と支部会員、クラウドファンディングに賛同して下さった全ての人々に講座動画を配信した。

次に、会員に向けてボランティアのチカラを借りたい方を募集し、交通費の心配が無いことを伝えた。が、希望はたった1件だった。利用しにくい課題は何だろうか？

■足りなかったピース

毎月のつどいでお聞きする家族の悩みや困りごとから考えると、認知症の人のお出かけは、予定した時間通りに行動できないことがあり、当日の気分によって中止にもなる。これは私も実感できることだ。これでは、お出かけ予定にあわせてボランティアに来てもらう、待ち合わせるなど、ハードルが高い。どうしても遠慮してしまう。そうでなくても申し訳なさに苛まれることが多いのに。

8月末に、2年半ぶりに開催されたバリアフリー展で出会った一人の男性。スマホアプリを使って迷子を捜す助け合いの仕組みを作られた方だ。数年前に聞いたことがあったが、忘れていたこの仕組みが、うまく使えるかも。大阪府支部でシステムやアプリを作るなんて無理なので、彼と連携しよう。きっと一歩進められるはずだ。

■WAD記念移動支援ボランティア講座

9月開催の第2回目の講座はWAD記念として二日間とも参加費無料とした（前は大人1万円）。さらにオンラインLIVE中継とし、後日動画配信も予定。京阪神の高校、大学、専門学校にも案内を送り、若い方の関心を高め参加にも期待している。

■一年後の姿

今はまだこの国にない制度を、「家族の会」大阪府支部が手探りで作るぞと宣言し、カリキュラムを作り養成を始めてしまった。実は事前調査で「マッチングは大変ですよ」とどの先達からも聞いてた。なので、そこをどうするか決まっていない。関わる全ての人たちが無理なく継続できる仕組みを考える必要がある。

ひとりでも多くの方に参加していただき、目の前で困っている人に声をかけ、肩を貸す、そんな方をひとりでも増やしたい。大変なことはできないけど、少しなら力になるよ、という人がこの国のあちこちに増えて欲しい。認知症家族だけでなくシングルマザーや子供の多い家族、障害者もこんな仕組みを利用して欲しい。大阪から全国に広がることを願い、まだしばらく奮闘していきます。

◆ シンポジウム ◆

「新時代について、みんなで考えよう」

■ シンポジスト紹介〈認知症本人〉

阿部 俊昭 さん（「家族の会」山口県支部 会員）



◆プロフィール

現在61歳。30年保育園園長を務める（2021年3月まで）現在は本人発信を主流に毎日を送っている。カフェや本人の集いに参加し、日々をエンジョイしている。

家族は妻と二男一女 孫二人

◆メッセージ

私は2017年8月に若年性アルツハイマー病と診断されました。脳神経外科から専門の病院に紹介されて現在もお世話になっています。

妻が私の変化に気がつき、病院へ行ったのですが私自身はなぜ病院に行かなければならないのかよく分かりませんでした。時々気分が落ち込むようないわゆる鬱のような状態を感じていたので病名が告げられた時には鬱でなくて良かったと思ったことでした。

病院では薬が処方されて薬を飲んでいます。服薬することで進行を遅らせる助けになると聞きました。加えて先生の説明によれば後発薬も出て従来に比べて安価になっているとも聞きました。仕事のことや生活習慣（運動、食事、睡眠）についてもご指導いただいています。

認知症の事についてはこの20年ですいぶん変わってきているようです。この10年では認知症の当事者・本人で（この言い方にはいささか抵抗がありますが）発信がなされはじめ認知症であっても生きる環境が整えられているように感じられます。私はとてもいい時代にこの病気として生かされていると思います。

「認知症とともに生きる希望宣言」が3年前に認知症の人たちの中から出されました。国の施策も掲げられ暮らしやすく地域や医療介護が整えられる方向に向かい、ためらわずに認知症だと発言できる時代が来ています。（それでも多少壁がありますが）

アルツハイマー病に関しては新薬の承認もなされ、近いうちに治療に使われるようになるのならそれは正に「新時代」、喜びです。

現在私は本人発信を少しずつしています。「自分のありのままを伝えたい」と口にした時に、一緒に考えて実現できるようにサポートしてくださる方々がいてくださり、その方々に支えられ

て実現しています。また、カフェや本人の集いの場に仲間が集まり、ともに何でも楽しく話せる居場所の事をお知らせできたらと思っています。

わたしは恵まれているこの時代の中で、今を生かされていることを神に感謝しながら、私に与えられているこの「認知症」とともに一日一日を精一杯よりよく生きることを目指して歩んでいきたいと思っています。

■ シンポジスト紹介 〈介護家族〉

堀永 ^{あつおみ} 敦臣 さん（「家族の会」山口県支部 会員）

◆プロフィール

1944年6月生まれ（77歳）

介護家族 光市認知症を支える会（福寿草の会 光）、
下松市えくぼの会 会員



63歳まで私立高校の教員を勤めました。1980年頃から、一緒に暮らしていた妻の母がアルツハイマー病を発症し徐々に進行して認知症になりました。その介護をしていた妻が2005年55歳でアルツハイマー病の診断を受けました。義母は約30年闘病し90歳で亡くなりました。妻が母の介護をするのを一緒に見たり手伝ったりしていたので、そのことが妻を介護するようになってからとても役立っています。現在妻は診断を受けてから16年経って病状も要介護度5に進みましたが、デイサービスを利用しながら自宅で暮らしています。私は最近腰痛に悩まされて「老々介護」の厳しさを実感しています。地元地域の家族会「光市認知症を支える会」「下松市えくぼの会」の活動に加わっています。

◆メッセージ

アルツハイマー病になった義母と妻、二人と一緒に暮らして一番辛かったのは介護ではなく、この病気が「治らない」「止まらない」ということです。妻は診断を受けたその日からドネペジル剤の投与を続けて病気の進行は緩やかになったと思いますが、記憶の喪失に始まり歩き回り、意欲の低下、言葉の喪失、体力の低下と徐々に進む病状を眼の前に、思うことはいつも「今、この段階で進行が止まってくれたら」ということでした。その思いは要介護5の段階になった今でも変わりません。もちろん、快復することができたらそれに超したことはありません。しかし、この病気を抱えて暮らしているものにとっては遠い先の完治より、今この時点で病気の進行が止まるのが切実な希望です。これまでも何回か新しい治療薬が開発されたとの情報もたらされその度に期待しましたが、確実なものは今日までありませんでした。2代にわたってアルツハイマー病の家族を看てきた私には、子供たちが新たにこの病気になることの心配が頭を離れませ

ん。私たちには間に合いませんでしたが、今回の新薬が功を奏してこれから先の患者とその家族の希望をつなぐことになればとてもうれしいことです。新しい治療薬が希望する人すべてに行き渡るような国を挙げての経済的な配慮がなされて欲しいとも思います。

義母の介護中に地域の家族会に参加した妻は、会の方々にとてもお世話になり励まされていました。自分が病気になってからもつい最近まで会の活動に私と一緒に参加していました。認知機能が衰え、言葉が出なくなっても、たのしい雰囲気ややさしく対応されることで穏やかな日々を送ることができています。これからますます認知症の人が増える時代になっていくとき、家族会に限らず生活する地域全体がこうした雰囲気に包まれ、認知症になっても何の心配も無く穏やかに暮らしていける場所になってほしいと思います。そのために少しでも役に立ちたいと思っています。

■ シンポジスト紹介〈専門職〉

児玉 悦子 さん（宇部リハビリテーション病院 認知症看護認定看護師）

◆プロフィール

認知症看護認定看護師

医療法人 和同会 宇部リハビリテーション病院

医療病棟 看護主任 兼 アルツハイマー病専門外来担当看護師

1993年宇部看護専門学校専門課程看護科を卒業後、現職場に勤務。

2010年認知症看護認定看護師を取得。病棟で勤務する傍ら、アルツハイマー病専門外来の看護師を担当。週に1回、医療病棟をラウンドし、認知症患者様への対応などを職員と共に検討・助言している。



◆メッセージ

令和元年（2019年）6月に認知症基本法案が衆議院に提出と共に、『共生と予防』を軸とした『認知症施策推進大綱』が発表されました。この『認知症施策推進大綱』は、『普及啓発・本人発信支援』、『予防』、『医療・ケア・介護サービス・介護者への支援』、『認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援』、『研究開発・産業促進・国際展開』の5つの柱に沿って施策を推進しています。

私達看護師は、『認知症施策推進大綱』が発表される以前から、認知症研修への参加や認知症の人の事例検討会開催など認知症に関する正しい知識と理解を得ることができるよう努めてきました。

その結果、同じ目線で話し、耳を傾ける時間がわずかではありますが増えてきたように感じて

おります。

しかし、「認知症本人の意思をできるだけくみ取り、それを活かした支援」となると、転倒などのリスクが先行してしまい、認知症本人の意思に答えられなかった場面を何度か見てきています。これでは、「認知症本人が望んでいる生活」が実現できず、行動範囲が狭まれ、ADLの低下だけでなく「生きる」ことへの活力も失ってしまうという悪循環が生じてしまいます。

この悪循環を回避するためには、心身の状態と共にその人の個性や想い、これまでの生活情報を理解することも必要です。これらの情報は、通常であればご家族から得ることができますが、一人暮らしの高齢者が増加している昨今、これらの情報が得られにくくなってきております。このような時には、地域で支えて下さっている全ての方々からの情報も必要と考えます。情報と言うと個人情報のことと敬遠されるかもしれませんが、「この時間はいつも散歩をされていますよ。」とか、「編み物が得意みたいですよ。」など、ほんのわずかなことでも良いのです。認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていけるよう、皆様に協力していただくことを切に願います。

2021年の介護報酬改定に伴い、「認知症介護基礎研修」の受講が義務化されました。このことで認知症の理解が深まり、協力者が増えていくと思います。加えて、医療従事者各自が住んでいる地域にも目を向けていくと願っています。これに認知症基本法案が可決すれば、介護事業者や介護施設などの環境も変わると言われており、「誰でも住みやすい地域」の一助になると思っています。私達も認知症の人の伴走者として、本人の意思をできるだけくみ取り、持っている力を最大限に活かした支援をしていきたいと思っています。

■ シンポジスト紹介 〈行政〉

葛原 良樹 さん（山口県健康福祉部 長寿社会課 地域包括ケア推進班）

◆プロフィール

山口県健康福祉部長寿社会課 地域包括ケア推進班班長

平成7年4月、山口県に入職。大島社会福祉事務所に配属

その後、土木建築部、総務部、健康福祉部への異動を経て、令和2年4月より現職



◆メッセージ

私は、昨年4月に現職に着任し、認知症施策に初めて携わることとなりました。

この間、いろいろな関係者の方、認知症のご本人・ご家族の方に出会わせていただきながら、そして、これからも出会わせていただくことを思いながら、現在、認知症施策が目指している社

会づくりに取り組ませていただいています。

そして、本大会のテーマのお言葉を借りますと、「新時代に入ろうとしている今」このときに、認知症施策に関わらせていただくことに、大きなやりがいと責任を感じています。

山口県では、本年3月、本県の高齢者施策を総合的に、計画的に推進するための計画である「第七次やまぐち高齢者プラン」を策定しました。

その施策の大きな柱の一つとして「認知症施策の推進」を掲げ、認知症施策推進大綱に基づき「認知症に関する理解促進と本人発信支援」、「認知症の予防及び容態に応じた施策の推進」、「若年性認知症の人に対する支援」、「認知症の人や家族が希望をもって暮らせる地域づくり」の取組を進めていくこととしています。

そして、これらの大きな4つの取組を、新時代に向かって拓いていく源泉は、認知症のご本人・ご家族の声や発信にあると考えています。発信には、認知症の人が自分らしく暮らされる姿や活動を通じて、私達が気づかせていただくということも含まれると考えています。

山口県では、令和元年度から、地域で認知症施策に携わる市町の職員等を対象に、「オレンジパワー活用セミナー～認知症の本人の視点や活動を活かすための講座～」を開催しています。

共に活動できるパートナーと2人1組で参加いただき、認知症のご本人の声を活かした取組やご本人からのメッセージを「学び」、本人の視点や活動を活かすため活動を「実践」、それぞれの活動を「共有」してもらい、本人の声や発信を施策や取組に反映していくことを実践的に学ぼうという取組です。過年度の活動事例集は、山口県長寿社会課のホームページに掲載していますので、ぜひご覧になってください。

事例集のとりまとめに際しては、セミナー参加者が実践したそれぞれの活動について、認知症のご本人からコメントをいただいているのですが、そこには、これからの取組に向けた、たくさんのヒントが啓かれていると感じています。

ご本人やご家族の声を出発点にまず一步を踏み出して、ご本人やご家族の声を推進力に取組の輪が循環していく。暮らしと地域を共に創る地域共生社会に向け、県内各地で、ご本人の声を活かした改善や実践が、自然と行われるような社会になればよいなと思っておりますし、そのような社会に向けて皆さんが取り組みやすいようにしていきたいと思います。

認知症基本法の検討や、アルツハイマー病に対する根本治療薬の承認申請など、画期的といわれるような大きな新しい動きが起きていますが、こうした新しい動きや成果をしっかりと受け止めて、認知症の人や家族の方が希望を持って暮らせる社会づくりを前に進めていくことが何よりも大事だと思っています。皆さんのお話からいろいろと学ばせていただき、今後の施策に活かしていきたいと思っています。



■ シンポジスト紹介 〈コーディネーター〉

川井 元晴（「家族の会」山口県支部代表

山口大学医学部 神経・筋難病治療学講座教授）



◆プロフィール

1990年 山口大学医学部卒。2021年4月から現職。

認知症の人と家族の会理事。認知症の人と家族の会 山口県支部代表

◆メッセージ

全国研究集会 in 山口のメインテーマ「ひらく ～新時代にむけて～」には、大きく2つの意味が含まれています。

一つ目は、早期アルツハイマー病に対する根本的治療薬がアメリカで承認されたという医学的な側面です。これまでは「認知症は治らない」というのが厳然たる事実でしたが、新規治療薬の登場で早期のアルツハイマー病では認知症の進行を止めることが出来るかもしれないと期待されています。この薬剤の承認データの解釈については未だ意見が分かれています、日本でも現在承認申請中であり、近い将来アルツハイマー病治療の新時代が到来するのではないかと考えています。

二つ目は、2019年6月に「共生」と「予防」をキーワードにして策定された認知症施策推進大綱のあと、「認知症基本法」制定にむけての動きがあることです。国会審議中のこの法案には、認知症の人の尊厳を保ちながら、認知症の人とその家族の意向に配慮しながら施策を行うことや、認知症への国民の理解を深めて地域の人々と認知症の人と家族が共生できること、認知症に対する研究推進と成果の活用発展などが盛り込まれていて、認知症の人と家族の意向に沿いながら、地域社会の人々も認知症を自分事として考えるための強力な施策になると期待したいところです。

これら2つの動きがみられる中で、山口県の方々はどのような考えを持っておられるのか聞いてみたいと思いました。そこで、「認知症が治る薬が日本で使えるようになったら、使ってみたいですか？」と「認知症の人が暮らしやすい地域って、どんな地域だと思いますか？」というテーマに沿った質問を2つ用意して、「家族の会」のつどいにご参加の皆さん、作業療法士や介護福祉士などの専門職の皆さん、大学生の皆さんなど様々な方々に回答していただきました。

また、2019年度に、認知症の人と家族の会が行ったアンケート調査「認知症の人と家族の思いと介護状況および市民の認知症に関する意識の実態調査」の中で「認知症に関する一般市民の認識調査」が行われていますのでその内容をご紹介します。これらの情報をもとにして、4名のシンポジストの皆さんにご意見を戴きたいと思っています。今回は、認知症の人の立場から阿部俊昭さん、介護家族の立場から堀永敦臣さん、医療従事者の立場から認知症看護認定看護師の児玉悦子さん、行政の立場から葛原良樹さんをお願いしました。シンポジストの皆さんは日頃から山口

第37回 全国研究集会 in 山口

県支部の活動に参加協力して戴いているのですが、異なる視点から「新時代」への期待や不安をうかがうことができればと考えています。

全国研究集会 in 山口にご参加の皆さんが、今回のシンポジウムで来たるべき「新時代」にむけてのイメージを拡げ、前向きな気持ちになってもらうことができれば大変嬉しく思います。



◆ 紙上報告1 ◆

遠距離介護で認知症のある母の一人暮らしを支えて －「心のつばさ」を広げられるようになるまでのこと－

介護ゆず

はじめに

太陽がギラギラと照りつける蒸し暑い夏のこと。2020年7月、母の本格的な遠距離介護が始まりました。

今ふりかえてみても心がヒリヒリする一番過酷な介護の暗黒時代だったように思い出されます。

そんな私に勇気と元気をくださったのが「認知症の人と家族の会」の電話相談でした。支えていただいたご恩のもとに、今は同じ立場の介護家族の方に向けて情報提供を始めるまでになりました。

もともと自分が後悔したくないという思いから始めた遠距離介護。ところが昨年末に母との長年のわだかまりが解消し心の握手までできました。

介護はわたしたち親子にとって互いを慈しむための大切な時間になりました。

今に至るまでをふりかえてみたいと思います。

人は人によって支えられている

2年前の夏に要支援1となった母は一度もサービスを利用することなく一年を過ごしました。再申請しようと帰省した昨年夏、母の家の中は荒れ果てていて目も当てられないありさまでした。当時の私の認知症に関する知識は乏しく、どうしてこんな状態になったのか理解に苦しみました。また、母が母でなくなってしまう恐怖もこみ上げてきて

「こんな気持ちをわかってくれるのは誰もいない」

とベッドで膝を抱えて泣いていました。

「認知症の人と家族の電話相談」に相談したのはちょうどそんな頃でした。ワラをもすがる思いで電話しました。話を聞いていただいているうちにカチカチだった私の心は次第にほぐれていきました。どれだけわたしにどれだけパワーを与えてくださったことか…。

「こんな思いをしているのは私だけじゃない…前にむいて歩いていこう!!」

と思えるようになりました。

人は人によって支えられている、人の支えがあるから立ち上げられる…そんなことを身をもって深く感じた体験となりました。

母とできた心の握手のこと

本格的な介護が始まって数ヶ月後に、長年抱えていた心のわだかまりを母に伝えました。母とギ

クシャクを抱えながら介護を続けていくのが苦しくなってきたからです。今まで何度も挑戦して、その度にすれ違いして終わることを繰り返していたので、もうこれで無理だったらあきらめよう…と決めて母に向き合いました。

…すると母から

「こんなツライ気持ちにさせていたんだね」

という一言が思いがけず出てきました。冷え切っていた心に一気に血が廻り始めたように温かな気持ちになりました。母への感謝の気持ちもこみ上げてきました。母87歳の暮れの出来事でした。この日以来、母の介護に正面から向き合うキモがドスンと座りました。母が幸せを感じて最期をむかえられるようにしてあげたいと心の底から思うことができました。

やさしさのバトンをつないでいきたい

母と心の握手ができてから踏ん切りがつき、今度は自分と同じ立場である介護がスタートしたばかりの方達の戸惑いや不安をやわらげるお手伝いをしたいと情報配信をはじめました。

音声配信stand.fmで「いきなり介護」という番組を立ち上げ、様々な方面の専門家にインタビューしてTwitterやnoteを通じて番組をシェアしています。

テーマは我が家の介護の体験談もあります。遠距離介護の強い味方のコミュニケーションロボットの「ロボフォン」と母の暮らしぶりを伝えています。専門家のインタビューでは、ダブルケア、認知症、口腔リハビリ、排泄の自立…など多岐にわたっています。認知症の人と家族の会の代表理事の鈴木さんや、理事で事務局長の鎌田さんにもインタビューにご協力いただきました。

介護が始まったばかりの家族は混乱の渦に飲み込まれ、今にも溺れてしまいそうな瀕死の状態ではないでしょうか。

介護の始まりは負荷がかかりますが、ここで正確な情報に触れられるかどうか、その後の介護の道が平坦になるか坂道になるかの分かれ目だと感じています。

今まで支えて導いてくださったご恩を胸に、今後も戸惑いの渦中にある介護がはじまったばかりの方に光がさすような情報を届けていきたいと思います。

「ゆず」という名前の由来

母がまだ認知症と認めたくないため本名の使用を控えています。大好きな「ゆず醤油かけぼん」から名前をつけました。

『いきなり介護』

－我が家の介護のリアルを反映した情報はSNSで随時配信中－

テーマ：認知症、遠距離介護、ダブルケア、ロボホン、訪問歯科、訪問診療…など

◆母の介護で感じた日々のつづやき

twitter: https://twitter.com/_ikinarikaigo?s=21

◆専門家のカタイ話をやわらかくしてインタビュー

stand.fm: <https://stand.fm/channels/5f90d0a837dc4cc7e1434076>

◆twitterとstand.fmの内容を記事にまとめています

note: <https://note.com/ikinarikaigo/n/n001d996b3f9e>

※「いきなり介護ゆず」で検索も可能です。



◆ 紙上報告2 ◆

認知症サポーターを養成するキャラバンメイトの活動に関する要因についてのアンケート報告

山口県支部 室田るり江

1. 目的

認知症にやさしい地域を作るために大きな役割を果たすと考えられる認知症サポーターの数は年々増加しており、山口県内では令和2年12月31日現在142,440名である。キャラバン・メイトは認知症サポーターを養成するための講座を開催できる立場であり、山口県では人口1万人当たりのサポーター養成講座開講数が約31.5回と全国平均（約29.1回）を上回っており、キャラバン・メイトは活動的にみえる。しかし、全国第3位の高齢県で、今後も高齢者が増加することが推定されているため、認知症サポーターを更に養成していく必要がある。登録されているキャラバン・メイトには講座を開催している活動的なメイトとそうではないメイトがみられるため、活動の現状およびニーズを明らかにすることを目的としたアンケートを実施した。

2. 対象と方法

山口県在住のキャラバン・メイト2,200名に対し、アンケート調査を郵送法で行った。抽出法は、最近2年間で認知症サポーター養成講座を開催したことのあるキャラバン・メイト645名と開催実績のないキャラバン・メイト435名について各々無作為に行った。なお、アンケート調査の性格上、解析時には認知症サポーター養成講座を開講したことのあるメイトを「活動メイト」とし、1度も開講したことのないメイトを「非活動メイト」として集計した。調査期間は2020年11月から12月とした。

3. 結果

回収率は36.2%（活動メイト39.5%、非活動メイト33.1%）であった。活動メイトは40歳代、50歳代が多く、非活動メイトは60歳代が多い傾向が見られた。

認知症サポーター養成講座を行うことについて相談したことがあるものは、活動メイトでは69%、非活動メイトでは16%であった。相談先は市町高齢者福祉主管課や地域包括支援センターが最多であった。活動メイトが開講できた理由としては、「市町職員との連携が取れているから」、「協力者がいたから（市町職員、他のメイト、友人など）」の回答が多く、協力者の存在が講座開催に大きな力になっていることが示された。

一方、非活動メイトが開講したことがない理由として挙げたのは、「一人での開講は不安、難しい」が最も多く、次いで「サポーター養成講座の開講要請がない」であった。活動メイトが市町職

員との連携がとれており、協力者がいることを考慮すると対照的な結果となった。

開講するために解決して欲しい問題としては、「協力できる仲間が欲しい」が最も多く、回答者は66名に上った。「キャラバン・メイト同士の情報交換があればよい」「キャラバン・メイトへの情報提供が欲しい」「市町の協力体制が欲しい」がそれに続いた。前問と合わせて協力者の存在と情報交換、市町からの協力および情報提供の希望が活動を行う上で必要だと感じているメイトが多いことが示唆された。

サポーター養成講座の開講についての要望、質問（自由記述）について、非活動メイトからは、「サポーター養成講座を聞いて勉強して開催したい」といった前向きな意見は少数に留まり、「日々の業務の中で精一杯」など日常の仕事が忙しい、高齢のため難しい、など消極的な意見が多かった反面、活動メイトからは、「寸劇のシナリオが提供いただけると助かる」「もう少しわかりやすく説明しやすいテキストがあればいい」「毎年レベルアップの研修を望みます」など、具体的に前向きなものが多かった。

4. アンケート報告を踏まえて

活動メイトに比べ、非活動メイトは高齢者の割合が多いことが明らかとなった。また、活動メイトは市町との連携が良好で協力者が存在していることがサポーター養成講座開講の大きな利点となっている一方で、非活動メイトはその両者が不十分な状況にあることも明確になった。各々の市町では、キャラバン・メイトを把握しサポーター養成講座の開講要請があればメイトに連絡する体制がとられているものと考えられるが、メイトによってはその機能を十分享受できていない可能性があると思定される。

自由記述欄では、活動メイトのコメントは多数の回答者から多岐にわたるコメントが寄せられ、その大半は前向きで建設的なものが多かったが、非活動メイトからは消極的な意見が目立っていた。しかしながら、キャラバン・メイトの活動に否定的というよりは、日常の多忙さに加えて、市町との連携や協力者の不足が活動の障壁となっているため、十分な活動が出来ず困惑し意欲が湧かない状況が推察できる。市町の連携体制を調整することや、キャラバン・メイトフォローアップ研修のような研修情報が各人に周知できることが今後の課題の一つである。

認知症の人が増加している現在では、認知症の人や家族を支え、認知症に優しい地域づくりを行うために認知症サポーターの役割は次第に大きく期待されている。キャラバン・メイトの活動には、そのような社会的役割が含まれていることを実感できるような研修を継続的に受講できることやキャラバン・メイト同士の交流や情報交換について、希望するときにはいつでもできるようなサポート体制の整備が重要だと考えられる。

5. 結 論

令和2年度キャラバン・メイト養成事業の一環として、山口県内のキャラバン・メイトを対象にアンケート形式で現状調査をおこなった。活動メイトが積極的にサポーター養成講座を開講している反面、非活動メイトは協力者や市町との連携ができず悩んでいる実態が明らかとなった。

市町の連携体制を調整することや、キャラバン・メイトフォローアップ研修のような研修情報が各人に周知できることが今後の課題の一つである。

認知症の人と家族の会 第37回全国研究集会in山口 実行委員名簿

山口県支部 世話人	氏 名
代表世話人	川 井 元 晴
副 代 表	山 田 千鶴子
世 話 人	正 司 明 美
世 話 人	越 野 淳 子
世 話 人	武 永 昇
世 話 人	江 口 光 昭
世 話 人	松 本 麻 子
世 話 人	岡 藤 農
世 話 人	木 村 恵 子
世 話 人	岡 本 友由樹
世 話 人	中 村 すま子
世 話 人	伊 木 康 人
世 話 人	小 坂 初 恵
世 話 人	藤 節 子
世 話 人	原 田 隆 子
世 話 人	佐 伯 映 子
世 話 人	井 田 智 会
世 話 人	室 田 るり江
世 話 人	橋 本 千 枝
世 話 人	升 谷 千津子

外部団体 所属		氏 名
一般社団法人 山口県作業療法士会		藤 田 彩 香
一般社団法人 山口県介護福祉士会		刀 祢 志津子
一般社団法人 山口県宅老所・グループホーム協会		植 木 美智子
		久保田 美 香
山口県認知症ケア専門士会		中 村 大 悟
公立大学法人 山口県立大学	社会福祉学部 教授	宮 崎 まさ江
	精神保健福祉Ⅱ研究室 4年生	雨 村 紘 海
	精神保健福祉Ⅱ研究室 4年生	小橋口 友 海
	精神保健福祉Ⅱ研究室 4年生	野 尻 百 花
	精神保健福祉Ⅱ研究室 4年生	濱 谷 しおり
	精神保健福祉Ⅱ研究室 3年生	江 舘 友 希
	精神保健福祉Ⅱ研究室 3年生	川 島 瑞 穂
	精神保健福祉Ⅱ研究室 3年生	土 居 麗
	精神保健福祉Ⅱ研究室 3年生	藤 井 文 乃
	精神保健福祉Ⅱ研究室 3年生	藪 木 鈴 菜
	山口県立こころの医療センター	山 本 加奈子
	一般社団法人 山口県薬剤師会	越 智 志 穂
		家 本 亜希子



認知症のひとと家族への援助をすすめる

第37回 全国研究集会 in 山口

公益社団法人 認知症のひとと家族の会 (2021年10月現在)

支 部 一 覧

●のマークがある支部は呼び出しです。
▲のマークがある支部はホームページがあります。
各開室日は祝日を除きます。

支部名	代表者	住所		T E L	F A X
北海道	中田 妙子	札幌市中央区北2条西7丁目かでる2.7 4F 電話相談 (月～金10時～15時)	▲	011-204-6006	011-204-6006
青 森	石戸 育子	八戸市殿町字厩合1-3 電話相談 (水・金13時～15時)	●	0178-35-0930 0178-34-5320	0178-34-0651
岩 手	内出 幸美	北上市北鬼柳22-46 電話相談 (月～金9時～17時)	●	0197-61-5070 0120-300-340	0197-61-0808
宮 城	若生 栄子	仙台市青葉区本町3-7-4 宮城県社会福祉会館2F	▲	022-263-5091	022-263-5091
秋 田	石村 照子	秋田市大町1-2-40 秋田轟真内 (月10時30分～14時)		018-866-0391	018-866-0391
山 形	五十嵐元徳	山形市小白川町2-3-31 山形県総合社会福祉センター内 やまがた認知症コールセンター (月～金12時～16時)		023-687-0387	023-687-0397
福 島	佐藤 和子	福島市渡利字渡利町9-6		024-521-4664	024-521-4664
茨 城	宮原 節子	牛久市中央3-15-1 牛久市保健センター隣り 電話相談 (月～金13時～16時)	▲	029-828-8089 029-828-8099	029-828-8089
栃 木	金澤 林子	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3F (月・水・金) 電話相談 (月～土13時30分～16時)		028-666-5166 028-627-1122	028-666-5165
群 馬	田部井康夫	前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター7F (月～金9時～17時) 電話相談 (月～金10時～15時)		027-289-2740	027-289-2741
埼 玉	花俣ふみ代	さいたま市浦和区常盤3-12-17 日建プリムローズ常盤第3-1F (電話相談 月～金10時～15時) 若年性認知症サポートセンター (月～金9時～16時)		048-814-1210 048-814-1212	048-814-1211
千 葉	合江みゆき	千葉市中央区千葉港4-3 千葉県社会福祉センター3F (月・火・木13時～16時) 電話相談・ちは認知症相談コールセンター (月・火・木・土10時～16時)	▲	043-204-8228 043-238-7731	043-204-8256 043-238-7732
東 京	大野 教子	新宿区左門町20 四谷メディカルビル2F アルツククリニックPETラボ内 (火・金10時～15時) 認知症てれほん相談 (火・金10時～14時)	▲	03-5367-8853 03-5367-2339	03-5367-8853
神奈川	杉山 孝博	横浜市神奈川区反町3-17-2 神奈川県社会福祉センター5F (月・水・金10時～16時) オレンジバートナー専用 (火・木) かながわ認知症コールセンター (月・水10時～20時、土10時～16時) よこはま認知症コールセンター (火・木・金10時～16時)		045-548-8061 045-548-8081 0570-0-78674 045-662-7833	045-548-8068
新 潟	金子裕美子	糸魚川市竹ヶ花45 金子裕美子方		025-550-6640	025-550-6640
富 山	堀井 隆子	富山市明輪町1-242-601 勝田方 (電話相談 夜間毎日20時～23時)	▲	076-441-8998	076-441-8998
石 川	飯田 芳枝	金沢市御所町末10 電話相談 (火・水・木13時～17時)	▲	070-5146-1025	076-251-8045
福 井	松原 六郎	福井市文京2-9-1 福井認知症疾患医療センター 電話相談		0776-28-2929 0776-22-5842	0776-63-6756
山 梨	田村 一貴	甲府市北新1-2-12 福祉プラザ3F コールセンター内 (事務所・相談 月・水) 認知症コールセンター (月～金13時～17時)		055-244-2771 055-254-7711	055-244-2771 —
長 野	伝田 景光	長野市篠ノ井有旅2337-1 電話相談 (月～金9時～12時)	●	026-292-2243 026-293-0379	026-293-9946
岐 阜	小森 薫	岐阜市長良総字法喜54		058-214-8690	—
静 岡	石田 友子	富士市富士岡1663-3 小澤方 認知症コールセンター (月・木・土10時～15時)		070-4492-9487 0545-64-9042	0545-38-0546
愛 知	尾之内直美	東海市養父町北堀畑58-1 認知症介護相談 (月～金10時～16時)	▲	0562-33-7048 0562-31-1911	0562-33-7102
三 重	中川絵里子	津市華水2772-75 三重県認知症コールセンター (月・火・木・金・土10時～18時)		059-227-8787 059-235-4165	059-227-8787
滋 賀	足立 智彦	草津市笠山7-8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内 フリーダイヤル電話相談 (月～金10時～15時)	▲	077-567-4565 0120-294-473	077-567-4565
京 都	河合 雅美	京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F 京都府認知症コールセンター (月～金10時～15時)		050-5358-6577 0120-294-677	075-205-5104
大 阪	神垣 忠幸	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-2 富士ハイスト103号室 電話相談 (月・水・金11時～15時)	▲	06-6626-4936 050-5275-8137	06-6626-4936
兵 庫	熊谷 光子	神戸市北区しあわせの村1-10 (月・木10時～17時) 電話相談 (月・金10時～16時)		078-741-7707 078-360-8477	078-741-7707
奈 良	屋敷 芳子	奈良市千代ヶ丘2-3-1 (火・金10時～15時、土12時～15時)		0742-41-1026	0742-41-1026
和歌山	梅本 靖子	和歌山市新堀東2-2-2 ほっと生活館しんぼり内 (事務局・相談10時～15時) コールセンター家族の会 (月～土10時～15時)		073-432-7660 0120-783-007	073-432-7661
鳥 取	吉野 立	米子市祇町1-10 わだや小路内 鳥取県認知症コールセンター・若年認知症サポートセンター (月～金10時～18時・土・日 携帯電話転送対応)	▲	0859-37-6611	0859-30-2980
島 根	黒松 基子	出雲市今市町1213 出雲保健センター内 (月～金10時～16時) 島根県認知症コールセンター (月～金10時～16時)	▲	0853-25-0717 0853-22-4105	0853-31-8717
岡 山	安藤 光徳	岡山市北区南方2-13-1 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 電話相談 (月～金10時～15時) おかやま認知症コールセンター (月～金10時～16時)	▲	086-232-6627 086-801-4165	086-232-6628
広 島	村上 敬子	広島市南区皆実町1-6-29 県健康福祉センター3F (事務所・相談 月・水10時～16時) 広島県認知症コールセンター (月・水12時～16時) 相談室 広島県健康福祉センター内 (火13時～16時30分)	▲	082-254-2740 082-254-3821 082-553-5353	082-256-5009
山 口	川井 元晴	山口市古敷中東1-1-2 電話相談 (月～金10時～16時)		083-925-3731	083-925-3740
徳 島	大下 直樹	徳島市中昭和町1-2 徳島県立総合福祉センター1F 徳島県認知症コールセンター (月～金10時～16時)	▲	088-678-8020 088-678-4707	088-678-8110
香 川	松木香代子	高松市牟礼町大町2555-2	▲	087-823-3590	087-845-4418
愛 媛	森川 隆	松山市道後町2-11-14 電話相談 (月・火・木・金10時～16時)		089-923-3760	089-926-7825
高 知	楠木 司	高知市本町4-1-37 高知県社会福祉センター内 電話相談 (コールセンター家族の会 月～金10時～16時)		088-821-2694 088-821-2818	088-821-2694 088-821-2818
福 岡	柳 竜一	福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市民福祉プラザ団体連絡室 (火・木・金10時30分～15時30分、第三火曜を除く) 福岡県認知症介護相談 (水・土11時～16時) 福岡市認知症介護相談 (木・第2日13時～16時)		092-771-8595 092-574-0190 0120-851-641	092-771-8595
佐 賀	小池 美鈴	佐賀市駅前中央1-9-45 大樹生命ビル4F 保険医協会内 佐賀県認知症コールセンター (月～金10時～16時)	●	090-2717-9955 (吉田) 0952-37-8545	0952-23-5218 0952-37-8545
長 崎	神原千代子	長崎市浅里町3-24 長崎県総合福祉センター県棟4F (火・金10時～16時)		095-842-3590	095-842-3590
熊 本	本山さつき	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル3F (水曜日除く毎日9時～18時) 電話相談 (熊本県認知症コールセンター 水曜日除く毎日9時～18時)	▲	096-223-5164 096-355-1755	096-223-5164 096-355-1755
大 分	中野 洋子	大分市明野東3-4-1 大分県社会福祉介護研修センター内 (火～金10時～15時)	▲	097-552-6897	097-552-6897
宮 崎	川辺 清人	宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス203号室 電話相談 (月～金9時～16時)		0985-22-3803	0985-41-4810
鹿児島	藤崎えり子	鹿児島市鴨池新町1-7 鹿児島県社会福祉センター2F 電話相談 (月～金10時～16時)		099-251-3928 099-257-3887	099-251-3928
沖 縄	鈴木 伸章	うるま市兼箇段1327-1 仲里宏淳方	●	098-989-0159	098-989-0159
本 部	鈴木 森夫	京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F フリーダイヤル電話相談 (月～金10時～15時)		050-5358-6580 0120-294-456	075-205-5104

個人協賛一覧

(掲載は50音順とさせていただきます。)

井形 岳郎	正司 明美
石元 由美子	正司 寛幸
出羽 里美	生活協同組合コープやまぐち
市河 幸子	大成寺
井上 晴香	高井 真由美
医療法人 医誠会 都志見病院	田中 光恵
医療法人社団 陽光会 光中央病院	中野 律子
医療法人社団 光仁会 市川医院	ながみつクリニック
医療法人 仁保病院	認知症 カフェ 夏みかん
石井 理恵	野村 翔子
大塚 智子	原田 隆子
岡部 美陽	原田 万里子
岡村 久美子	原田 靖子
沖野 基規	平田 陽子
株式会社 ベルコ東山口	福田 輝子
川井 元晴	藤 節子
下川 貴世	藤本 みどり
下松認知症を支える会 「えくぼの会」	堀永 敦臣
口羽 理恵	牧 文子
黒瀬 初美	升谷 千津子
久村 紀恵	松田 紀元
倉増 悦子	光田 武
越野 淳子	三輪 絹代
古村 知可	山口ダイハツ販売株式会社 山口店
齋藤 富美江	山口やよい絵手紙教室講師 右田 朱実
佐伯 映子	山根 享子
佐々木 喜次	山根 正
島田 公子	山本 美佐子
周南認知症を支える会「福寿草の会」	

防府市のコミュニティFMラジオ局 FMわっしょい



スマホからでも受信できます。
公式アプリダウンロードはこちら
防府市栄町1-5-1 <http://www.fm-wassyoi.jp>



兼清メディカルサービス

KANEKIYO MEDICAL SERVICE



グループホーム **1ユニット** 定員 / 9名
兼清 ※要支援2からご利用可能。

内庭のある、広々とした環境。
公園も隣接しています。

光市光ヶ丘3-6

グループホーム **2ユニット** 定員 / 18名
浅江 ※介護度1からご利用可能。

兼清外科2F・3Fにある
光市を一望できるグループホーム。

光市浅江3-1-25 兼清外科2F・3F

TEL 0833-74-0100 グループホーム兼清

いつもあなたのそばに



かなえ薬局

山口市小郡令和1丁目1番2号
メディフィットラボ3階
TEL:083-902-2603
FAX:083-902-1956

開局時間 月・火・水・金 9:00~18:00
木・土 9:00~13:00
定休日 日曜・祝日・年末年始

どちらの病院からの処方箋もお受けいたします

下松市 内科・小児科

しげおか医院

- 特定健診・健康診断（企業診断など）
- 生活習慣病の健康相談
- 往診・訪問診療の実施

診療時間	月	火	水	木	金	土
AM9時~12時	●	●	●	●	●	●
AM2時~6時	●	●	●	●	●	●

休診日 / 木曜・土曜午後、日・祝日

下松市大手町2-6-14 ☎(0833)41-1130



法人理念



社会福祉法人
ひとつの会

〒747-0065
防府市大字大崎 801-1
TEL 0835-26-6667
FAX 0835-26-6668
<http://hitotsunokai.jp/>



外科 / 内科 / 胃腸科 / リハビリテーション科 / 麻酔科



平岡医院

743-0009 山口県光市室積松原4番7号

院長
平岡 博

電話 / 0833-79-1500
ファックス / 0833-79-0079



社会福祉法人ひかり苑
特別養護老人ホームひかり苑

理事長 河野 亨 施設長 内富 昭

光市大字三井1065番地1
TEL(0833)76-1165 FAX(0833)76-1166



医療法人社団二三会 あべメディカルケアグループ

みずほ内科クリニック

一般内科・脳神経内科・
リハビリテーション科
院長 安部 真彰

もの忘れ・
認知症相談医
オレンジ
ドクター

〒744-0075 山口県下松市瑞穂町二丁目19番14号
☎(0833)45-6161・FAX(0833)45-6162

※診療時間や予約方法など、詳しくはホームページをご覧ください
<https://www.abe-medicare.jp/>



明治安田生命

徳山営業所

Tel:0834-22-1517

〒745-0071 山口県周南市岐山通り2-13-2F



ひとに健康を、まちに元気を。



祝 第37回全国研究集会 in 山口

山口県介護支援専門員協会

YAMAGUCHI CAREMANAGER ASSOCIATION

介護支援専門員は職能団体として会員の資質を高め、地域で暮らす高齢者の自立とその人らしい生活が送れるよう頑張っています



〒753-0072

山口県山口市大手町9-6

TEL:083-976-4468

FAX:083-976-4469

E-mail kaisenkyo@y-cma.jp

活動内容は
こちらから



自分史・記念誌のご用命は関西共同印刷所まで

関西共同

株式会社関西共同印刷所

〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5

Tel.06-6453-3651 Fax.06-6452-4980

<http://www.kansai-kyodo.jp/>



～安心、それが私たちの願いです～



特別養護老人ホーム松寿苑

下松市大字来巻944番地の1

TEL 0833-47-1220

FAX 0833-47-1222

※職員募集中

(受付) 月～金 8:30～17:30 担当: 村中／亀山

認知症は他人事ではない。
もちろんこの僕にとっても。



(登) 日本20120820/4/17, 業務部

日本生命

そのことを恐れるのではなく、正しく備えるために。

ニッセイ **みらいのカタチ** 新登場

認知症サポート

認知症保障保険

ご検討にあたっては、「契約概要」「注意喚起情報」「ご契約のしおり・定款・約款」を必ずご確認ください。

日本生命保険相互会社 山口支社

065-21-128

地域の皆様に支えられて
法人創立 50 周年

社会福祉法人 **光富士白苑**

特別養護老人ホーム ショートステイ デイサービスセンター

訪問介護 居宅介護 訪問給食 有料老人ホーム

〒743-0022 山口県光市虹ヶ浜2丁目5番7号



TEL 0833-71-3090

くわしくはこちら⇒



NOiN

+α = 提案力、実績力、情報力、技術力
私たちが社会へ提供するプラスアルファです。

YAMAGUCHIKEN NOKYO PRINTING inc



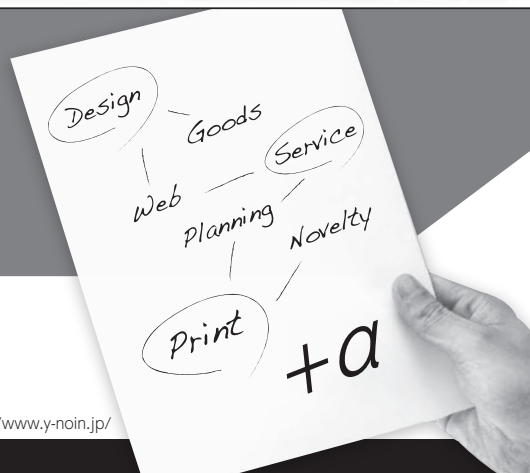
株式会社
山口県農協印刷
YAMAGUCHI KEN NOKYO PRINTING inc

JAグループ山口



〒754-0897 山口県山口市嘉川668番地1 PHONE 083-989-6100(代) FAX 083-989-6111 <https://www.y-noin.jp/>

印刷×WEB×OA機器×広告×ノベルティ



100年を超える印刷技術と対応力

／ オンラインでらくらく注文!! ／



いろぷり®

iropuri.com

いろぷり



ネット印刷のいろぷりが支持される**7つの理由**

① 安定の高品質

② お約束厳守

③ 手厚いサポート

④ 環境への配慮

⑤ 便利な機能とサービス

⑥ こだわりのコストパフォーマンス

⑦ 多彩なサービス

感染対策商品・抗菌商品

みんなで乗り越えよう!

オリジナル
プリント
マスク

飛沫感染
防止用
パーテー
ション

抗菌
マスクケース
紙製

フェイス
シールド

抗菌名刺

その他 定番の印刷商品は、いろぷりサイトをご覧ください

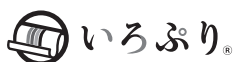
新規会員登録で**2,000**ポイント

プレゼントキャンペーン実施中 ※2回目以降のご注文からポイントがご利用できます



お気軽にお問い合わせください

サイトにない商品や仕様も**見積りします!**



運営
会社



ネット印刷 ITP 株式会社

※株式会社 ITP (旧 石田大成社) 100%出資

〒601-8133 京都市南区上鳥羽薬田20-3 TEL.0120-89-7216 (お電話 受付時間) 10:00~17:00



ケアプランセンター えびすや

【指定居宅介護支援事業所】3570602197
【指定特定相談支援事業所】3535600591
【指定障害児相談支援事業所】3575600139



防府の福祉を笑顔で明るく



居宅介護支援事業所

ケアマネジャーの事業所です

えびすやでは
これらの事業を
運営しています

相談支援事業所

障害福祉版ケアマネジャーの事業所です

認知症カフェ



向島小学校、富海小・中学校、
大道憩いの家にて認知症カフェを
オープンしています。

社会福祉士事務所

- 福祉の総合相談 ■成年後見制度の受任
- 任意後見人の受任 ■見守り契約、財産管理委任契約
- 死後の事務委任契約

えびすや
ホームページ



facebook で日々の活動を配信中です!!

<https://www.facebook.com/ebisuya.yamaguchi.hofu>

【TEL】0835-28-7940

【営業時間】平日 9:00～17:00

【所在地】防府市戎町1丁目 7-8

医療法人社団里滋会



片山内科クリニック

内科・神経内科

医師と患者、家族と診療・相談



心理士による
認知機能検査



看護師による
原因検査・相談

血圧測定・心電図・採血・
嗅覚検査・頸動脈エコー・
睡眠時無呼吸検査・
尿検査・膀胱残尿量測定等
の検査も行っております。



	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●
14:00～18:00	●	●	●	●	●	●

休診日：木曜日・土曜日午後、日曜日、祝日

☎086-422-0753



院長の片山禎夫です。

ふるさと倉敷で開院しています。

患者さん、ご家族が元気で過ご
せるよう努力する所存です。

見守って下さい。

〒710-0813 岡山県倉敷市寿町1-26 マツダパーキングビル 1F

医療法人やよい

河村循環器神経内科

介護医療院・周南リハ訪問ステーション

居宅介護支援事業所・デイサービス・グループホーム

理事長 河村 康明

光市三井6丁目18-1 TEL0833-77-0606



心のお医者さんに聞いてみよう

介護者を
守る本

くるみクリニック 院長
西村 知香 監修

発行元 大和出版
A5判 96ページ
定価 ￥1,300+税
ISBN: 9784804763309

● ● ● ● ● ● 診療日 ● ● ● ● ● ●



くるみクリニック

☎03-3327-7462 (完全予約制)

156-0041 東京都世田谷区大原 2-23-5

	月	火	水	木	金	第2・第4土	
10:00~13:30	●	●	●	●	／	9:00~11:30	●
15:30~18:00	●	●	●	●	／	14:00~16:30	●

休診日：金曜日、第1・3・5土曜日、日曜日



福祉生活協同組合 さんコープ

介護保険事業

- ・居宅介護支援（ケアマネジャー）
山口市・宇部市に各 1 事業所
- ・訪問介護（ヘルパー）
山口市・防府市・宇部市に各 1 事業所
- ・通所介護（デイサービス）
山口市・防府市・宇部市に各 1 事業所
- ・看護小規模多機能型居宅介護
山口市に 1 事業所

電話：**083-902-3830**

ホームページアドレス：<http://www.san-coop.jp>

介護保険外事業

- ・居住事業
（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）
山口市・宇部市に各 1 事業所
- ・家事代行サービス（家事支援、草取り、庭木の剪定、障子・襖・網戸の張り替えほか）
山口市・防府市に 1 事業所

いつでもお気軽に
お問合せください。



医療法人

仁保病院

理事長 貞國 燿

院長 貞國 太志

〒753-0303 山口市仁保下郷1915-1 TEL.083-941-5555 FAX.083-941-5577

[e-mail] info@niho-hp.jp [URL] <http://www.niho-hp.jp>



「わが家」に暮らす満足と誇りを、 高齢者向け住宅にも。

積水ハウスの医療・介護

With
PLATINA

[ウィズプラチナ]

積水ハウスがご提案するサービス付き高齢者向け住宅「セレクトリオ」。

それは、いくつになっても自分らしく誇りをもって生きていけるよう、

快適で心豊かな暮らしを独自の生涯住宅思想と先進技術で支える「住まい」。

高齢者の方々を祝福しながら、将来にわたって「わが家」の満足が続く環境を敷地全体で創造します。

社会貢献をしながら大切な資産を活かす事業—積水ハウスとご一緒に、はじめませんか。

サービス付き高齢者向け住宅「セレクトリオ」

CELEBL/O



積水ハウス株式会社 京滋奈シャーマンズ支店 TEL.075-253-0587 FAX.075-211-7717

〒604-8186 京都市中京区烏丸通御池下る梅屋町358番地(アーバンエクス御池ビル西館7F)

営業時間／9:00～18:00 定休日／土・日曜日、祝日

医療法人 惻隠会 木村脳神経・外科内科



診療科目：
脳神経外科・外科
脳神経内科・内科
リハビリテーション科

在宅介護支援センター尚歯堂
(居宅介護支援事業所)
TEL:0835-26-1131

山口県防府市大字新田780番地の3
TEL:0835-21-5533

特別養護老人ホーム 社会福祉法人 敬天会 まめ舎

入居定員80名
短期入所生活介護10名
(介護予防短期入所生活介護含む)
まめ舎ヘルパーステーション
(訪問介護・介護予防訪問介護)



山口県防府市大字新田 6 7 2 番地
TEL:0835-26-0303

介護老人保健施設 医療法人 惻隠会 尚歯堂



入所定員100名
通所リハビリテーション
(介護予防通所リハビリテーション)
訪問看護ステーション
さわやかナース
(訪問看護・介護予防訪問看護)
TEL:0835-26-1132

山口県防府市大字新田775番地の1
TEL:0835-26-1133

住宅型有料老人ホーム 株式会社 娑羅樹館

株式会社娑羅樹
有料老人ホーム娑羅樹館
定員 22名
娑羅樹ヘルパーステーション
(訪問介護・介護予防訪問介護)



山口県防府市新田776番地の5
TEL:0835-27-0311

脳・脊髄・末梢神経・筋肉の内科専門医



ねごろ神経内科 クリニック

院長
根来 清

小郡下郷320番1 TEL083-976-5256

<http://www.negoro-neuro.jp/>

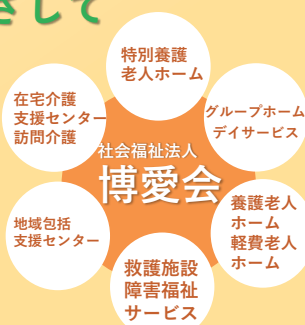
社会福祉法人 博愛会

法人理念 常に利用者の立場に立って考え、そして行動する

信頼される福祉をめざして

医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、多様な介護・福祉サービスを提供することで、地域ニーズにお応えできるよう、職員一同努めます。

各地区あかり園職員一同



笑顔あふれるケア

充実した研修体制



防府地区

- ・防府あかり園
- ・防府温泉ホーム
- ・在宅介護支援センター
- ・防府あかり園訪問介護事業所
- ・防府あかり園デイサービス
- ・デイサービスセンターであい
- ・防府西地域包括支援センター
- ・グループホーム防府あかり園
- ・グループホームいちえ

宇部地区

- ・宇部あかり園
- ・宇部温泉ホーム
- ・宇部西あかり苑
- ・宇部あかり園デイサービス
- ・在宅介護支援センター
- ・宇部あかり園訪問介護事業所
- ・宇部市東部第2地域包括支援センター

山口地区

- ・山口あかり園
- ・山口温泉ホーム
- ・山口あかり苑
- ・山口あかり園デイサービス
- ・居宅介護支援事業所
- ・山口あかり園訪問介護事業所
- ・グループホーム山口あかり園

秋穂地区

- ・秋穂あかり園
- ・秋穂温泉ホーム
- ・グループホーム秋穂あかり園
- ・秋楽園
- ・秋穂デイサービスセンター

鑄銭司地区

- ・聖和苑
- ・グループホームひまわり荘
- ・ワークハウスすぜんじ
- ・地域活動支援センター

社会福祉法人博愛会 〒747-1232 山口県防府市大字台道1655番地 電話0835-32-0730 <http://www.hakuai-kai-yamaguchi.jp/>



脳神経筋センター
よしみず病院



2021年12月より、昭和病院が移転します
下関市後田町1丁目1番1号

思いやりの心から生まれた保障

都道府県民共済グループ
山口県民共済

〒745-8691 山口県周南市桜馬場通1-16

☎0834(21)8405



身近な
法律問題を解決する
パートナー



司法書士法人・行政書士
やまぐち中央事務所

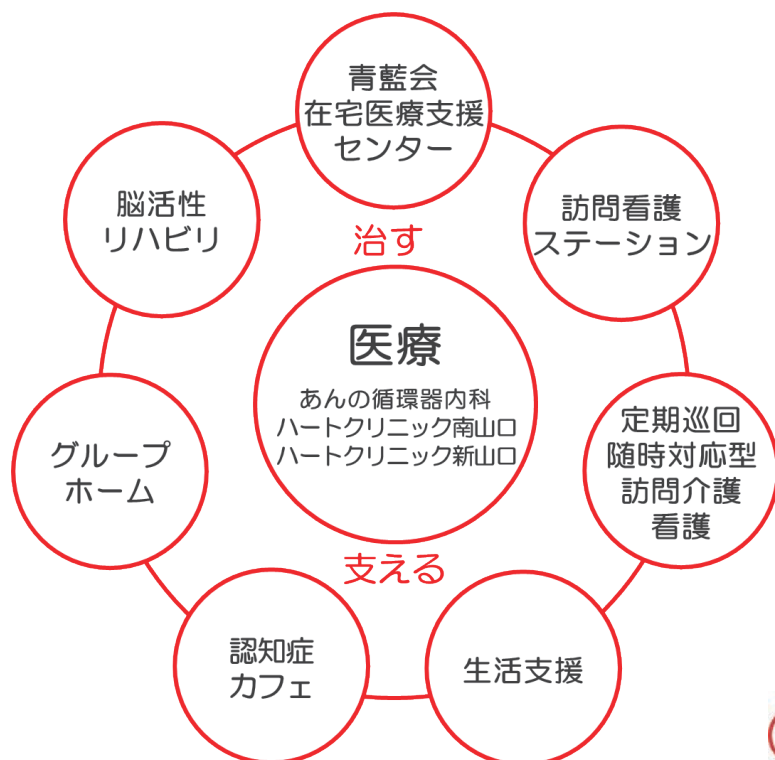




せいらん

青藍会グループ

医療法人社団／社会福祉法人



99th
SEIRANKAI
GROUP
SINCE 1922

地域とともに、あなたと生きる。

まちをハートでつつみたい。



青藍会在宅医療支援センター 0120(2)81056

セイランカイ

青藍会

あんの
代表 阿武義人
理事 長



青藍会グループ
公式サイト



働くスタッフの声・
様子をご覧ください。

グループ本部：山口市吉敷中東一丁目1-1 ① 083(933)6000

東京本部：東京都世田谷区成城2-35-3 ① 03(3416)7771

山口県立大学は80周年を迎えました。



2022年度から 3 コース制 スタート

精神保健福祉

コースの特徴

精神疾患および障害により生じる生活課題の解決に向けて、本人やその家族に対する相談・支援を行いながら、広く人々のメンタルヘルスの課題に対応するソーシャルワーカーを養成します。

コミュニティソーシャルワーク

コースの特徴

地域共生社会の創造に向けて、人々の生活上の課題を明らかにし、その課題に対して個別的な支援を行い、地域や社会全体の課題解決に関わるソーシャルワーカーを養成します。

子ども家庭ソーシャルワーク

コースの特徴

子どもの育ちとその家族への相談支援を総合的に担う子ども家庭支援に関わるソーシャルワーカーを養成します。



ヤンセンが目指すのは、 病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。
病と懸命に闘う患者さんのために、
高い科学技術、独創的な知性、
世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。
複雑な課題にこそ挑んでいく。
新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。
世界中に、私たちを待つ人がいる限り。

誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。
そんな「当たり前」の願いのために、
自ら変え、努力を続けます。



ヤンセンファーマ株式会社

www.janssen.com/japan

www.facebook.com/JanssenJapan



SOMPO ホールディングス

安心・安全・健康のテーマパーク

その人は、つよい。

ウイルスから逃げず、命と向き合う。

その人は、やさしい。

不安に、寂しさに、寄り添いつづける。

その人は、あきらめない。

今できることは、すべてやる。

その人は、たのもしい。

安心できる場所を、守りつづける。

介護事業に携わるSOMPOグループから、
すべての介護従事者にエールを送ります。

一歩ずつ、ひとつずつ、
新しい安心へ。



SOMPOグループの介護への取り組みの詳細はこちら

<https://www.sompo-hd.com/company/elderly/cheering/>

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。

病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。

私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。

治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。

病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。

「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ